

国立教員養成大学・学部，大学院，附属学校の取組状況について

～ グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集 ～ Vol.3

令和2年12月

はじめに

- この事例集は，「国立教員養成大学・学部，大学院，附属学校の改革に関する有識者会議報告書」を踏まえ，国立大学の附属学校や，教員養成大学・学部，大学院において実施されている新型コロナウイルス感染症への対応等を収集し，好事例や先進的な取組を以下の項目ごとに取りまとめたものです。

■ 項目

1. 附属学校関係

- ① 臨時休業中の取組
- ② 学びの保障のための取組
- ③ 感染拡大防止のための取組
- ④ 教員の働き方・人的体制整備
- ⑤ 地域との協働

2. 国立教員養成大学・学部関係 3. 教職大学院・大学院関係

- ① 新たな生活様式を想定した教育研究の取組
- ② 実習科目の実施の工夫・弾力化
- ③ 感染拡大防止のための取組
- ④ 地域との協働

- 各国立教員養成大学・学部、大学院及び附属学校におかれましては，今後の取組の参考として御活用いただければ幸いです。

目次

1. 附属学校関係		分類	ページ	2. 国立教員養成大学・学部関係		分類	ページ
北海道教育大学	オンライン授業構築に向けた公立学校への研修支援 (附属釧路中学校)	①⑤	P.2	北海道教育大学	外国人児童に対する遠隔での日本語支援 (国際地域学科)	①④	P.13
北海道教育大学	特別な支援を要する児童生徒への動画による家庭学習等支援 (附属特別支援学校)	①	P.2	北海道教育大学	本学が開発したCBTによる在宅学習支援と教員研修への活用	③④	P.13
筑波大学	休校時の生徒の学習保障に向けた筑波大学附属高等学校の取り組み	①	P.3	宮城教育大学	コロナ禍における図書館の分散利用の推進	③	P.14
千葉大学	「学校ホームページを毎朝見る」を基本とした遠隔学習指導	①	P.3	東京学芸大学	オンライン上で繋がる「学びをとめない」場の創造 - 感染症禍での 教員養成と教育現場の課題解決を進めるサービスラーニングの取組 -	①	P.14
東京学芸大学	「朝読書ルーム」オンライン会議システムを利用した読書空間の提供	①	P.4	新潟大学	学内システムの負荷軽減・学生からのアクセスを容易にする授業実施	①	P.15
横浜国立大学	附属児童生徒のメンタルケアと「コロナいじめ」の未然防止	①	P.4	新潟大学	討論でアクティブ・ラーニングを加速するオンライン講義と授業研究 の取組	①③	P.15
横浜国立大学	コロナ休業中の児童生徒の資質・能力育成に資する家庭学習デザイン	②	P.5	滋賀大学	遠隔講義における理科実験とチャット形式によるデータダイエット	①②	P.16
上越教育大学	タブレット端末を用いた「学びを止めるな！」プロジェクト (附属中学校)	①	P.5	兵庫教育大学	「学生ニーズに応えるオンライン授業」のための個別最適サポート	①	P.16
富山大学	居場所の確保から遠隔授業へ (附属特別支援学校)	①	P.6	山口大学	オンライン学童保育「大学生とおうちで遊ぼう！」	①	P.17
金沢大学	子どもたちと夢に生きる大人たちをつなげるサイト「NEO Teachers」 (附属小学校)	①	P.6	愛媛大学	実技系科目の遠隔授業対応	①	P.17
山梨大学	県内外学校園に向けての学習支援	①	P.7	大分大学	教師力向上のための教員採用試験対策オンライン型指導システムの 構築	①	P.18
信州大学	「ラジオ」番組形式の音声データを活用して学校・子ども・保護者を つなぐ	①	P.7	3. 教職大学院・大学院関係			
信州大学	自主的に動き出した、google classroomを活用した学友会 (生徒会) の 活動	①	P.8	横浜国立大学	オンライン講義・実習及び院生の主体的な取り組みによる遠隔教育の 推進	①②	P.19
三重大学	Moodleを活用した地域自治体と附属学校園のオンライン教材の共有	①	P.8	熊本大学	“教職大学院発”遠隔授業に関するオンライン研修及び学習支援動画の 制作・公開	①④	P.19
大阪教育大学	感染拡大防止のための取組を全国へ広く公開 (附属天王寺小学校)	③	P.9				
和歌山大学	附属小学校における臨時休業中の学びの保障 (学習プラン等の活用)	①	P.9				
福岡教育大学	附属福岡小学校オンライン朝の会の実施及び全国の教育関係者への 公開	①④	P.10				
福岡教育大学	附属福岡小・中学校「福岡市つながるクラウド」への授業動画提供に よる地域貢献	②⑤	P.10				
福岡教育大学	附属小倉中学校「学びと成長を止めないプロジェクト」	②③④	P.11				
大分大学	教育課程や授業展開を再考した実践事例 (附属小学校)	②	P.11				
大分大学	密集・密接を避ける運動会の実施 (附属特別支援学校)	②	P.12				

1. 附属学校関係

【北海道教育大学】オンライン授業構築に向けた公立学校への研修支援（附属釧路中学校）

・臨時休業中に全生徒に対して遠隔会議システムと学習支援アプリを活用したオンライン授業を実施。4月24日から学校再開までの22日間にわたり、芸術教科を含む全9教科と学活を1日最大4時間行った。現在も月1回、土曜オンライン授業を実施している。

・これまでの取組を、公立学校等においても活用できるように、導入までの経緯（第0期）からオンライン授業開始の（第Ⅰ期）、改善を行った（第Ⅱ・Ⅲ期）、ポスト・コロナを見据えた（第Ⅳ期）の区分に応じた資料を作成し、HPに掲載するとともに報告書を作成。5月から遠隔授業の研修会を企画し、本校または出前授業、リモート方式で開催した。

・8月末までに道内外のべ80校、200名を超える視察・研修（リモート含）の受入れを行った。本校から90km以上離れた中標津町立中標津中学校では、本校のオンライン授業を現地で公開し研修会を開催。さらに、白糠町立庶路学園には、校内研修に本校教員を講師として派遣した。これらの取組により、のべ25校のオンライン授業の実現に貢献した。

<オンライン授業を全教科、全生徒に実施>



<公立学校での研修会>



<公立学校での出前遠隔授業>

第Ⅳ期 ポスト・コロナ～臨時休業後を考える

これまでの本校の授業の本質は、コロナ以前から何も変わらないものとおさえる。

しかし、臨時休業期間中に実施したオンライン授業で生徒が感じたことや教師がオンライン授業の構築を進めていく上で考えたことを振り返る必要がある。

新しくなる学習評価に関わっても、この臨時休業期間中に利用した学習ツールは有効活用できると、現場で数多くの先生方が認識している。また、授業の中で、一度に生徒の意見を集約できる利点もある。個別最適化を見越してEdtechを見据えた令和3年度からの義務教育学校を目指す上で、本校が研究主題として掲げる「道東に根ざし9年一貫したリーダーシップ・フォア・アワードの育成」に向け、評価・改善をして今後の授業の在り方を模索していきたい。



【北海道教育大学】特別な支援を要する児童生徒への動画による家庭学習等支援（附属特別支援学校）

・特別な支援を必要とするため家庭での自主学習が困難な児童生徒も多いことから、臨時休業中における家庭学習等を支援するための動画作成・配信を行った。動画の作成にあたっては、繰り返し経験することで学習内容が定着する児童生徒の特性を考慮するとともに、学校再開後も継続して学習できるよう日常的に学ぶ内容を短時間にまとめ、毎日繰り返し家庭で学習することができるよう工夫した。また、児童生徒に環境の変化を感じさせないよう、普段から接している教員が動画に出演し、体育（運動）3本、図画工作6本、音楽（手遊び）3本、手洗い1本の合計13本を配信した。さらに、オリジナルのメッセージソング「学校で待っているよ」を作成し、児童生徒への呼びかけを行った。

・教員が定期的に電話等により保護者へフォローアップを行ったこともあり、保護者からは「子どもが継続して家庭学習に取り組んだ」「子どもや親の不安が解消された」「子どもが学校に行きたがった」などの声が聞かれ、臨時休業解除後は、どの児童生徒もスムーズに登校することができた。

動画による家庭学習等の支援

北海道教育大学附属特別支援学校

らんどろ どうが

あうちエグザサイズ

左右にステップしてパン

北海道教育大学附属特別支援学校

できるひ どうが

しあわせなら てをたたこう

しあわせなら てをたたこう

北海道教育大学附属特別支援学校

できるひ どうが

こうちやうせんせいと やってみよう

手の周りにハイキンを

体力向上 学習内容の定着

心のケア

感染予防

臨時休業解除後のスムーズな登校へ

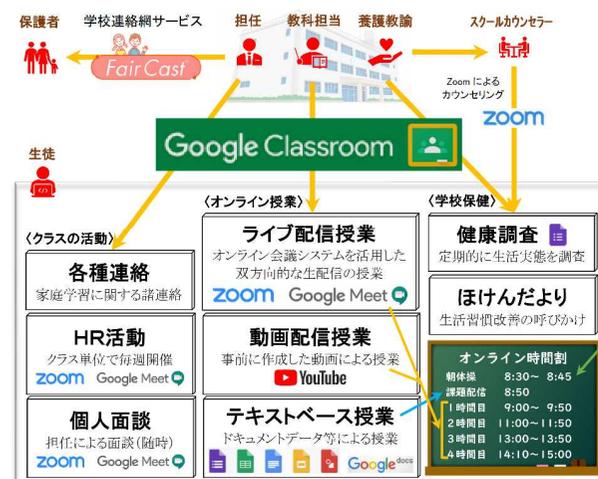


1. 附属学校関係

【筑波大学】休校時の生徒の学習保障に向けた筑波大学附属高等学校の取り組み

- 機動的な対応をするため、教員有志11名によるプロジェクトチームを結成し、オンライン授業システム作り、環境整備、情報収集し、オンライン授業実施の環境整備（実態調査、機器の貸し出し）を4月の早い段階より行った。
- 生徒アンケートの結果から、テレワークの家族との関係で長時間パソコンを専有できない、通信量に制限がある等の実態を確認し、各科目「ライブ配信型」は授業時数の5割までにおさえて、残りはYouTube等を活用した「動画配信型」、Googleドキュメント等を活用した「テキストベース型」の授業とし、3つの型を時間割上も配置するようにした。「ライブ配信型」の授業はZoomのブレイクアウトルーム機能、投票機能等を活用し、生徒相互、教員と生徒による対話的、双方向的な内容を配置した。「動画配信型」「テキストベース型」は、問題演習やその解説等を重点的に配置した。生徒が苦手なところを繰り返し視聴することで理解が深まる等、オンライン授業ならではの成果も見られた。
- これらの実績を踏まえ、教員対象のオンライン授業研究会を開催し、265名(うち公立学校教員157名、教育委員会等関係者3名)の参加があった。

■休校時のオンラインを活用した教育活動の全体図



〈様々な活動〉

入学式動画

- 校長挨拶
- ・新入生代表挨拶
- ・歓迎の言葉

新入生歓迎サイトの立ち上げ

生徒会執行部
各種委員会・部同好会紹介動画等を掲載

全校生徒による朝体操の実施

毎朝8時半からZoomを利用して全校生徒による朝体操を実施

「オンライン文化祭」を計画中

秋の文化祭を中止としないことを決定
新しい形での実施を模索中

【千葉大学】「学校ホームページを毎朝見る」を基本とした遠隔学習指導

- 附属中学校において、休校措置開始当初より、生徒に「平日は毎朝9時に学校ホームページ（内部向け）を見て、学級や教科などからの連絡を確認すること」を指示。学級通信、教科の教材・課題等を毎朝掲載し、最小限のネット環境で基本的な学習ができるようにした。
- 課題の提出や各教員への連絡は、ホームページ上のフォームを通して受け付けることとした。
- 学級活動や一部教科では、生徒間の交流を目的とする活動や理解を深めることを目的とした内容を中心に、任意参加で同時双方向型授業を行うこととした（約75%の生徒が参加）。毎日当日と次回更新日の同時双方向型授業時間割を掲載した。
- メールシステムを用いて全保護者にアンケートを調査を行い、家庭の通信環境を把握し、タブレット端末の貸与を希望する家庭（約10%）に端末を貸し出した。
- 課題提出や同時双方向型授業で連絡がとりにくい生徒を中心に、定期的に学級担任が家庭連絡をし、生徒の状況の把握に努め、学校再開後個別の指導等を行った。
- 原則として教員は在宅勤務とし、遠隔で上記学習指導に対応した。

◇5月29日(金)9時更新の記事 ※本日、1年生の分散登校日です。

※本日、17時に「分散登校期間中の特別時間割表」を掲載します。

- 学校全体…学校貸出用タブレットの返却について
- 3学年…学級により(3A・3B・3C・3D)、社会、数学、理科、英語、保健、体育、家庭、生徒会
- 2学年…各教科初授業時の持ち物、社会、数学、理科
- 1学年…学年便り、社会

Zoomミーティング 更新日 当日分の予定表

Zoomミーティング 次回更新日 当日分の予定表

▼表A 学年全体や各学級からの連絡や広報など →【質問や相談は、「表C」からどうぞ】

学校	3学年 (UP1)	A組 (UP1)	B組 (UP2)	C組 (UP1)	D組 (UP1)
全	2学年 (UP1)	A組	B組	C組	D組
体 (UP1)	1学年 (UP1)	A組	B組	C組	D組

▼表B 各教科からの課題や連絡 →【質問や相談は、「表D」からどうぞ】

3	国	社	数	理科	英語	音	美	保	技	家庭
学	語 (UP3)	会 (UP3)	学 (UP1)	(UP2)	(UP1)	楽 (UP1)	術 (UP1)	体 (UP1)	術 (UP1)	(UP1)

1. 附属学校関係

【東京学芸大学】「朝読書ルーム」オンライン会議システムを利用した読書空間の提供

1) オンライン読書空間の場の仕組みの特徴

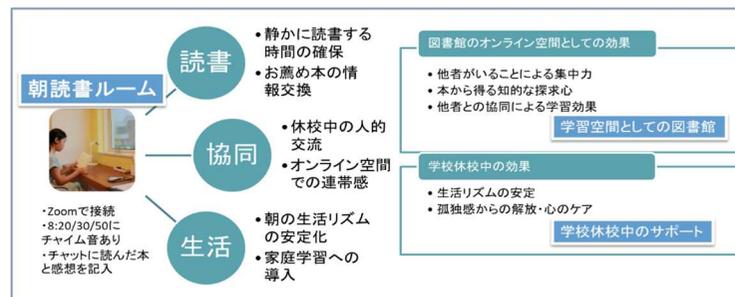
- ・オンライン会議システム（Zoom）の会議室に自宅からアクセス
- ・朝の時間帯，チャイム音を合図に，カメラの前で読書を行う。（相互の顔が見えることを意識しあう，連帯感のある読書空間。）
- ・読んだ本を推薦しあう交流・会話の時間によって読書意欲を高める。
- ・附属学校生徒（小中学校）および大学生等の多様な参加者
- ・大学の附属図書館とExplayground推進機構による実施

2) 取組の効果

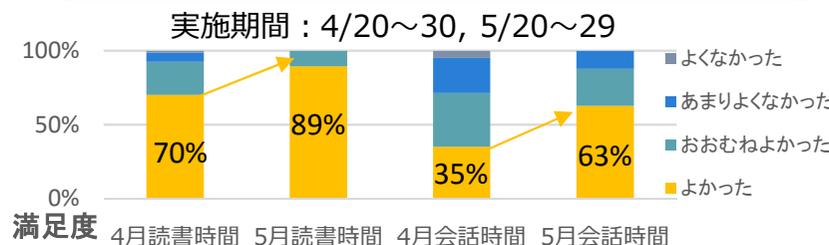
- ・周囲に他人がいることによる集中力の向上，本への知的関心の醸成
- ・学校休校中の生活リズムの安定，家庭学習のスムーズなスタート
- ・学校休校中の児童生徒の交流，心の癒し効果

3) 波及効果

- ・オンラインにおける「場所としての図書館機能」のモデル提示
- ・簡単な実施方法であるため，他校での展開が容易



外円:4月225名 一般
内円:5月76名



【横浜国立大学】附属児童生徒のメンタルケアと「コロナいじめ」の未然防止

- ・全校に配置されたスクールカウンセラー（SC）と，スーパーバイザー（SV）及び附属学校部大学教員によるSV・SC連絡研究協議会を随時実施している。具体的には，児童生徒，保護者，附属学校教員のメンタルケア実践を共有し合い，より良いケア方略について探究している。コロナ休業中もSCによる電話相談，Skype等によるリモート相談を実施し，児童生徒，保護者等のメンタルケアの保障を継続した。リモート授業では不登校傾向の児童生徒の参加度が増すという成果があった一方で，従来頑張り続けていた生徒が，SCへの新たなクライアントになる傾向も見てとれた。休業明けも対面とリモートによるきめ細やかな相談事業を継続している。
- ・加えて，附属学校部より分散登校開始後の「コロナいじめ」等の未然防止に資する通知を全家庭に一斉配付した。具体的には，コロナの3つの感染，すなわち①病気そのもの②不安や恐れ③偏見や差別について紹介し，附属学校全体で，全ての人の自由や安心を相互に承認し合う雰囲気醸成に努めた。登校再開後も折にふれ「3つの感染」に基づき学級指導している。



1. 附属学校関係

【横浜国立大学】コロナ休業中の児童生徒の資質・能力育成に資する家庭学習デザイン

- 一般的な家庭学習は目標—達成—評価型カリキュラムに依拠するドリル等、習得型学習に陥りやすいが、それでは学習者の動機は上がりにくい。
- そこで、本附属学校では「育成すべき資質・能力」の発揮を基盤とする、主題—探究—表現型カリキュラムに依拠する家庭学習デザインを行った。
- 教師が主体的に取り組みたくなるオープンエンドな主題（テーマ）の設定をし、学習者は思考力・判断力を発揮しつつ、配付された教科書や教師からの課題シート内の知識を活用・探究し（＝深く学び）、自由に表現できる家庭学習の実践である。オンラインによる双方向性が確保された後は、個別の自由な探究表現を対話のなかでさらに深めるという家庭学習における主体的・対話的で深い学びの実践に繋がった。右図は、小学校全学年を対象とした図工科の自由課題例である。「光とかげから生まれる形」を探究創造し、デジタルカメラで撮影（表現）し、相互に鑑賞し合う学習方略を採用した。以上のような家庭学習においては「思考・判断、表現」観点を中心にルーブリック（採点指針）に基づいた学習状況の評価を実施した。

全学年

図工部の先生たちからのメッセージ

図工という、「絵をかく」「色をぬる」「紙を切る」「物を組み立てる」のようなことをするイメージが強いが、『家の光・太陽の光』とその光から作られる『かげ』を使って、想像をふくらませながら 楽しい作品を作ろう。

自由課題

鑑賞名（学しゆうするところ）

ひかり から 光 とかげから生まれる形

学しゆうのステップ（じゆんぱん）

- 『暗い場所（節慶）』でいろいろな道具や人間の体のかげを作ってみよう。いろいろためて楽しもう。
※物や人の後ろからライトなどの光を当て、壁にかけよう。
※家族にも「あ、か」とか、またちがった発見があるかもしれない。
- 『暗い場所（節慶）』でかげの作品を作り、写真を撮ろう。
- 『明るい場所（外）』でいろいろな道具や人間の体のかげを作ってみよう。天気が良い時に、外で使う道具でいろいろためて楽しもう。
※自動車などが通らない、安全な場所で行おう。
- 『暗い場所（節慶）』でかげの作品を作り、写真を撮ろう。
- 2つの作品の作品名を決めよう。
- それぞれの作品の、良かったこと・大変だったこと・楽しかったことなどをふり返り（課題レポート）に書こう。

学習のための参考資料

先生の子供も作ってみました！

保護者の方へのお話し

一つの正解があるわけではありません。お子様の自由な発想で楽しく活動してほしいと考えています。資料を参考にさせていただきながら、お子様の活動への支援をお願いします。

・屋外での活動の際には、安全への配慮をお願いします。
・作品とふり返り（課題レポート）を写真で撮って、らくらく連絡網を通じて担任へご提出ください。（どちらか1作品だけの提出でも構いません）

【上越教育大学】タブレット端末を用いた「学びを止めるな！」プロジェクト（附属中学校）

- 休校2日目からビデオ会議システムを用いて、朝、昼、夕方に学級活動を行った。顔を見ながらの健康観察、生徒同士の話し合いの場の設定により、生徒の連帯感を高め、心のケアを図ることができた。
- 休校中は、学年ごとの時間割で同期型・非同期型を組み合わせたオンライン授業を行った。習得重視の学習では、自作のビデオクリップや既存の学習Webサイトを用いた非同期型の授業を行い、理解を深めた。課題探求を重視した学習では、教師と生徒、生徒同士がビデオ会議システムで意見を交わすことができる同期型の授業を行い、思考を深めた。
- 教材の回収・添削・返却だけでなく、生活記録ノートもデジタルデータで送受信した。生徒は、教師から継続的・適時的な支援を受けるとともに、自己評価しながら主体的に学習に取り組むことができた。
- 教員は、自宅でビデオ会議システムを用いた打合せやクラウドを用いた教材配信を行った。一人あたり週5日のうち3～4日の在宅勤務を行い出勤者を平時の1/4にすることで職員室の密を回避することができた。



安全・安心 小グループに分かれて交流の場

生徒アンケート（2020年3月末と5月末に実施）

- 「休校中、遠隔・朝学活ができてよかった。」 **97.4%**
- 「遠隔・朝学活ではみんなと会えて安心した。」 **87.5%**



学力の保障 同期・非同期型を混ぜた授業デザイン

- 「休校中、Zoomや先生方が作成した動画を活用したWeb授業ができてよかった。」 **96.4%**
- 「休校中もしっかり学習を進めることができた。」 **97.7%**



1. 附属学校関係

【富山大学】居場所の確保から遠隔授業へ（附属特別支援学校）

- ・休校期間中はデイサービス等を利用せず、一日中家庭で過ごしている児童生徒が56名中30名近くおり、生活のリズム、学校（友達や先生）とのつながり、学びへの意欲の点で対応が必要であると判断した。このため、各段階に応じた遠隔授業（3週間）と動画教材の配信を行った。（右図）
- ・新入生だけでなく全児童生徒にとって、新しい学級の友達や担任との関係が作れない時期が長かったが、動画教材で教師から呼びかけられたり、3週間の遠隔授業により、身近に感じられ、学習内容についても単元の導入を行ったことで、学校再開後にスムーズな学校生活に移行することができた。
- ・保護者アンケートによる満足度は、動画配信に対して97.3%（とても満足36.8% やや満足60.5%）、遠隔授業に対して88.6%（とても満足63.6% やや満足25.0%）と評価したほか、「子供が毎日楽しみにし、早く起きて準備していた」「友達と会えてうれしそうだった」「音の大きさやハウリングなど課題もあるが、日常の授業や夏季休業等にも生かしてほしい」という意見が聞かれた。

学校再開後につながる関係作りと学びの継続

小学部

遠隔授業（朝20分）

朝の会

+

動画配信教材

既習学習と再開後に学ぶ単元に関わる内容

中学部

遠隔授業（1時間）

学部全体	学級	全体で運動	グループに分かれて各教科等の学習
------	----	-------	------------------

高等部

遠隔授業（30分）

個別対応

→

少人数で

→

学級ごと

動画配信教材と対応させた内容

（1週目）

（2週目以降）



【金沢大学】子どもたちと夢に生きる大人たちをつなげるサイト「NEO Teachers」（附属小学校）

- ・家で時間が増えた子どもたちに夢と希望をもってほしいという願いから子どもたちと夢に生きる大人たち=NEO Teachers（以下NEOT）を本校教諭がコーディネータとなってつなげるサイトを立ち上げた。
- ・本サイトには、本校教諭のアドバイスの下、「夢について語る動画」「家でできる課題」の2本の動画をNEOTから提供していただく。動画は、サイト内にアーカイブとしてまとめられ、全国の小学生が閲覧できる。
- ・課題に取り組んだ子どもが作品等をSNSにアップすると、課題を出したNEOTや本校教諭からコメントや評価がもらえることが、このサイトの特色の1つである。
- ・他の小学校からは、「動画を授業に使わせてほしい。」「NEOTからもっと話を聞きたい。」といった声が寄せられている。また、本校ではNEOTと子どもをオンライン授業で出会わせたりするなど、教科横断的な授業を行っている。
- ・低中学年でも動画によるNEOTの指導で図工作品の制作や運動などを家庭でも容易に取り組めた。また、高学年においては様々な職種の大人たちの「夢について語る動画」の視聴から、キャリア教育における効果も得られた。

竹与井 かこ 先生

先生の紹介 竹与井かこ（たけよいかこ）先生は、笹井信吾さん（石川県出身、多摩美術大学卒業）畑中宝子さん（北海道出身、金沢美術工芸大学卒業）の2人で絵本を作っているユニットです。現在は石川県の金沢市にすんでいます。第7回日本童画大賞受賞後、2017年に『トイレさん』（佼成出版社）でデビューしました。その他の絵本には『れいぞうこからとって！』『スプーンコプター』（アリス館）、『すまじっちゃん』（教育画劇）があります。

絵本作家
<https://www.takeyokako.com/>
<https://www.instagram.com/takeyokako/>



夢を叶えるために必要なこと



夢を叶えるために「今」家でできること

動画をみて、作品を作ってみましょう。作品をInstagramに「#ネオティーチャーズ」と本文に書いて投稿（とうこう）すると、先生に見つけてもらえて、コメントをもらえるかもしれません。お家の人に協力してもらって、チャレンジしよう！

動画の一例

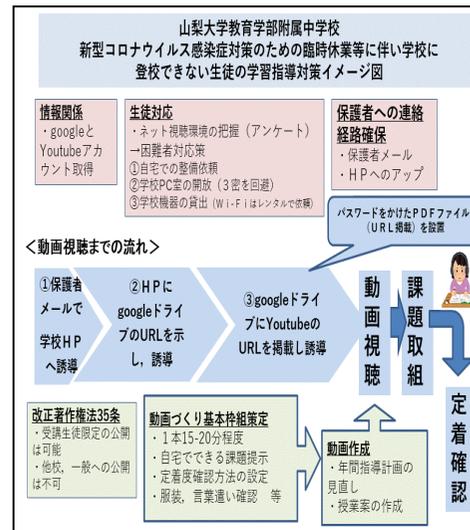
動画総再生数：5247再生（4か月間）



1. 附属学校関係

【山梨大学】県内外学校園に向けての学習支援

- ・新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業等に伴い、県内公立学校の現状や要望の情報収集を行うとともに、保護者からも子ども達の身体活動の実態、生活習慣の状況など休業中の現状を聞き取り、ニーズを把握した。
- ・学びをいかに保障するかを課題として、幼児、児童、生徒の発達段階を考慮し、各校園が工夫したオンライン授業実施の手順や資料、参考となる授業動画を作成し、幼小中特別支援学校全校種における取り組みを「県内外の学校園に向けての学習支援」として公開した。
- ・配信の過程で、わかりやすい教材提示の仕方や、映像配信方法について校園間で工夫し、各学校園のホームページにおいて県内外に広く公開した。
- ・県外の複数の国立大学附属幼稚園や小学校からの問い合わせや、県内の公立学校から「配信の手順が分かった」「配布文書のひな型をそのまま使うことにより、大幅な労力削減となった」等の意見が寄せられた。



放送予定日	【附属幼稚園テレビ局】					【やってみよう!TV】					
	日	時	タイトル	5領域	5領域	日	時	タイトル	5領域	5領域	
19年 月 日	1	10:00	1 手洗いしよう!	◎	◎	19年 月 日	1	10:00			
19年 月 日	2	10:00	2 えかきうたをしよう!	◎	◎	19年 月 日	2	10:00			
19年 月 日	3	10:00	3 げんまにあそぼう!	◎	◎	19年 月 日	3	10:00			
19年 月 日	4	10:00	4 やぶいであそぼう!	◎	◎	19年 月 日	4	10:00	8 楽器をつくろう!	◎	◎
19年 月 日	5	10:00	5 懐紙「へっこきたろう」	◎	◎	19年 月 日	5	10:00	9 楽器をつくろう!	◎	◎
19年 月 日	6	10:00	6 ことばあそびをしよう!	◎	◎	19年 月 日	6	10:00	10 楽器をつくろう!	◎	◎
19年 月 日	7	10:00	7 作った楽器で演奏しよう!	◎	◎	19年 月 日	7	10:00	11 虫かがねで見よう!	◎	◎
19年 月 日	8	10:00	8 どうぶつになっちゃおう!	◎	◎	19年 月 日	8	10:00	12 マジックの変わり紙をしよう!	◎	◎
19年 月 日	9	10:00	9 保護 大型紙芝居「は、にげちゃった!」	◎	◎	19年 月 日	9	10:00	13 なになになるかな?	◎	◎
19年 月 日	10	10:00	10 紙皿シアター	◎	◎	19年 月 日	10	10:00	14 おりがみでつくってみよう!	◎	◎
19年 月 日	11	10:00	11 紙皿シアター「おんたんとん、こんばんは!」	◎	◎	19年 月 日	11	10:00	15 バズルをつくろう!	◎	◎

【信州大学】「ラジオ」番組形式の音声データを活用して学校・子ども・保護者をつなぐ

- ①きっかけ
 - ・休業中に学校と子ども、保護者とのつながりを生み出す方法とした。
 - ・特に1年生とその保護者の不安を払拭したいと考えた。
- ②取組(収録内容)の実際
 - ・ラジオ番組形式の音声データを作成。家庭でダウンロードして聴取する形式とした。
 - ・新就職員の紹介、健康に関するアドバイス、家庭学習のポイント解説、児童会からのお知らせ、子どもからのおたより紹介等を内容とした。
- ③広がり
 - ・家族で聴取し、学校にかかわる会話が生まれる家庭が増えた。
 - ・回数を重ねるごとに子どもや保護者からのおたよりが増え、学校・子ども・保護者間を相互につなぐ場の一つとして機能した。
 - ・1年生担任を司会としたことから、「会ったことはないけどよく知っている先生」に出迎えられ、安心して登校する1年生の姿につながった。

【子どもの声】

- ・本当のラジオを聞いているかのように、楽しかったです。早くみんなに会えたらいいな、と思います。
- ・ラジオ、毎回聞いています。特に、早口ことばが面白かったです。家で、家族とやってみましたが、難しくできませんでした。またやってほしいです!

【保護者の声】

- ・子どもがイヤホンで聴いて「先生がそばにいる!」と、とても喜んでいました。見ている親としても、うれしかったです。
- ・我が子は、先生の声が聞こえた瞬間、最高の笑顔で飛び上がっていました。早く、学校でお会いしたいです。

【職員の声】

- ・子どもたちのおたよりを讀んだり、保護者の方から声をかけていただいたりして、涙があふれました。できることをやっていきたいと心から思いました。

1. 附属学校関係

【信州大学】自主的に動き出した、google classroomを活用した学友会（生徒会）の活動



① きっかけ

- ・附属長野中学校の学校文化の一つである、学芸委員会が中心となって進める全校合唱活動が途絶えてしなうのではないかと、という危機感をもった生徒からの提案
- ・classroomを利用したオンライン学活の仕組みの活用に関する生徒からの問い合わせ

② 取組の実際

- ・生徒が内容を検討、作成し、顧問教諭は情報モラルの観点を中心に確認
- (例) 本部：休校明けの学校生活に向けてのアンケート
学芸委員会：全校合唱曲の詩や音楽から感じ取ったイメージの投稿や意見交換の場
購買委員会：「有人購買・無人購買の使い方」動画（生徒作成）
整美委員会：家庭での15分間清掃の提案

③ 広がり

- ・休校明け、classroom内での意見交換等の内容を、掲示や校内放送で紹介
- ・休校当初の、活動ができないことに対するやや悲観的な様子から、本校学友会の伝統と未来を見据え、「今の私たちだからこそできること、やらなければならないこと」の視点をもって創造的に考え、活動することに対する前向きな姿勢へと変容

学友の皆さんへ
休校中の生活、いかがお過ごしでしょうか。
学友会本部では、休校明けの学校生活に向けてアンケートを実施することにしました。学校や学友会へのふとした疑問や思いを書いていただくものです。ぜひ皆さんの率直な意見をお聞かせいただければ幸いです。
実施期間は20日（水）までです。
ご協力をお願いします！ 学友会本部

学芸委員会です。

今年度の全校合唱曲は『わたしの中にも』に、「雰囲気・イメージ」とどうして（またつながり（詩の全体のイメージ）”を考え”

歌詞とスプレッドシートを添付してあるのにオンライン



音取り動画もアップします！

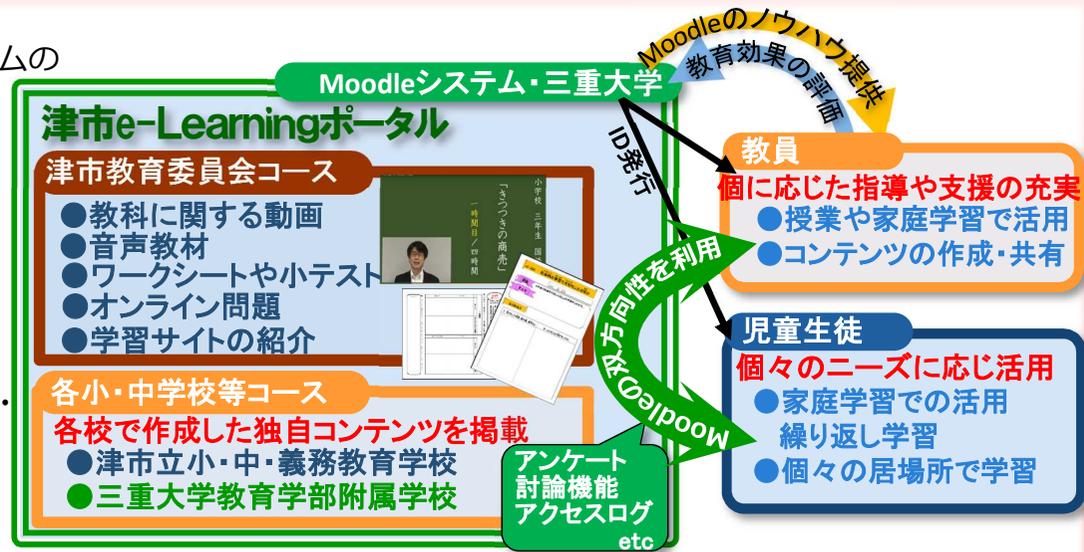
【三重大学】Moodleを活用した地域自治体と附属学校園のオンライン教材の共有

【背景・目的】

- ・三重大学はmoodleを活用したPBL教育を推進中。そのプラットフォームの特性と組み合わせた独自のOn-line授業を附属小中学校で現在展開中。
- ・津市教育委員会は、市内の児童生徒や外国にルーツを持つ子どものニーズに応じた豊富なコンテンツ（教材・学習材）を開発している。
- ・両者の協働によりポスト・コロナの時代を見据えた新しい学びを保障するための学習支援プラットフォームを構築することを目指している。

【取組内容・効果】

- ・大学が提供するmoodleシステム上に津市e-learningポータルを構築することで津市教委の動画教材作成のノウハウと大学のオンライン授業のノウハウを融合。
- ・津市の小中学生22,132人に対しID発行済み。公開後約2ヶ月で全児童生徒の34.2%が個別アクセスしている（9/24現在）
- ・教室での指導と家庭学習を一体化した新しい学びのスタイルの構築につながる先進的な取り組みであるとの評価を津市教委から得ている。
- ・現在、三重県全域への展開（対象10万人）に向け、県教委と協議中。



1. 附属学校関係

【福岡教育大学】附属福岡小学校オンライン朝の会の実施及び全国の教育関係者への公開

○Zoomを利用したオンライン朝の会の実施

保護者から、児童の生活習慣に関する相談や学校とのつながりに関する要望が寄せられたことから、4月27日からZoomを利用したオンライン朝の会を開始した。オンライン朝の会では、ウォーミングアップ、朝の挨拶、健康観察、学級訓と今日の志（目標）紹介などを行った。

○オンライン朝の会の全国の教育関係者への公開を通じたノウハウの提供

オンライン朝の会について、県内外の教育関係者から参観希望の要請があり、オンライン朝の会の様子の公開した（5月7日～5月12日）。朝の会の終了後、教育関係者に対する無料相談会を開催（終了後30分間）した。

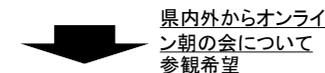
【無料相談会の実施状況】

参加者は、北海道から沖縄まで全国から589名が参加した。オンラインでの教育に悩む教育関係者250名から感謝の声が寄せられた。本校の取組をきっかけに福岡市立百道浜小学校がオンライン朝の会を導入している。



Zoomを利用したオンライン朝の会を実施

- 保護者から生活習慣に関する相談や学校とのつながりへの要望



全国の教育関係者への公開ノウハウの提供

- 5月7日～5月12日の間でオンライン朝の会を公開
- 朝の会終了後、30分間の無料相談会を実施
- 全国から589名が参加し、250名から感謝の声



【福岡教育大学】附属福岡小・中学校「福岡市つながるクラウド」への授業動画提供による地域貢献

○臨時休校に伴う家庭学習支援の必要性

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休校（3月）のため、福岡市内の子供たちは、学期当初に学習を進められない状況であった。

○「福岡市つながるクラウド」への授業動画提供

福岡市教育センターから依頼があり、「福岡市つながるクラウド」に本校職員の授業動画を提供した。国語科、社会科、算数科、理科、英語科の計37本の授業動画を福岡市内の小・中学生が利用した。動画の一部は本校のYouTubeチャンネルにも掲載したところ、視聴回数が3,000回を超える授業動画もあった。

○休校中の地域の子供たちの学びの継続に貢献

ゴールデンウィーク中は、地元キー局サブチャンネルで放映、連休中の自主学習へ活用され、地域の学びの継続に貢献した。



- 福岡市内の小学生が利用
- GW中は地元キー局のサブチャンネルで放映
- 地域の学びの継続に貢献



1. 附属学校関係

【福岡教育大学】附属小倉中学校「学びと成長を止めないプロジェクト」

「学びと成長を止めないプロジェクト」を立ち上げ、オンラインツールを活用した支援を実施した。そのうち「子どもの【学びをとめない】取組」では、主に子供の“学習面のケア”を中心に以下に取り組んだ。

○各種アプリの特色を踏まえた多様な学びへの対応（※臨時休校中）

- ・Zoom（みんなで、同時に）
- ・YouTube（いつでも、何度でも）
- ・ロイロノート（先生と双方向で）
- ・まなびポケット（ひとりでも）

○対面授業とオンライン配信とのハイブリッド方式（※分散登校中）

教室授業（1学級2分割：20人）と在宅オンラインZoom（40人）の同時進行で授業を実施した。対面授業を行う教師1名、オンラインで授業に参加する生徒を支援する教師1名がチームティーチングを行い、分散登校中においても、生徒全員が同質の学びを継続することができた。学習評価についても、複数教師が関わることで、対面授業時における適切な支援を実施することができた。

○教師の在宅での支援の推奨（※臨時休校中）

教師は上記に係る打ち合わせ、教材作成、オンライン授業を在宅で実施した。

①多様な学びへの対応



②対面授業とオンライン配信とのハイブリッド方式

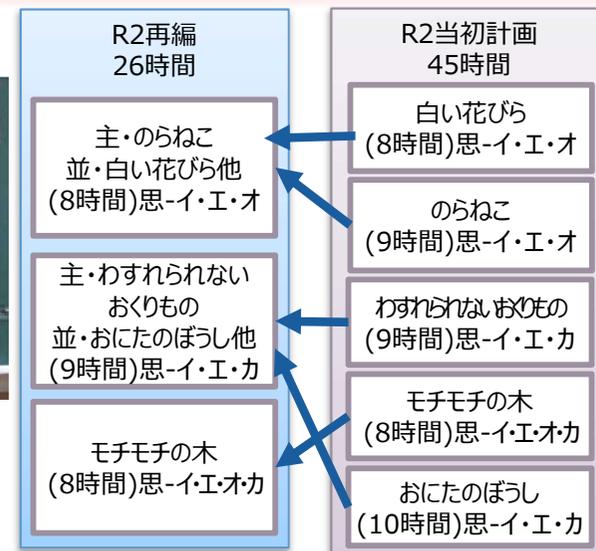


【大分大学】教育課程や授業展開を再考した実践事例（附属小学校）

- ・休校によって削減された授業時間内で児童に必要な学習を確保するためのカリキュラムマネジメントに取り組んだ。
- ・例えば国語科では、計画時の指導事項が同じ単元を統合する形で教育課程を再編し、主教材で身に付けた読み方を並行して読んだ教材や本にも活用させて読むことで、時短を図るとともに、児童が確実に資質・能力を身に付けることができるようにした。
- ・また、授業展開において反転学習を取り入れた。課題について各自の考えを書いてくるまでを家庭で行い、学校では考えを出し合ったりまとめたりすることに重きを置くようにした。算数科の授業では、5人の児童の考えをもとに、発展的・統合的に考える力を身に付けさせていった。反転学習を導入することで、各単元において1~2時間程度、時数に余裕ができた。思考に時間を要する児童もじっくり考える時間があるために、すべての児童に活躍の場を保証することができた。
- ・学校現場を活性化させるこれらの取組は、大分県教育委員会にも、コロナ禍におけるカリキュラムマネジメントの実践事例として提供した。



授業の後半15分程度で、次の課題の共有と見通しを出し合う。



1. 附属学校関係

【大分大学】密集・密接を避ける運動会の実施（附属特別支援学校）

- ・密閉・密集・密接を避けるため、運動場で実施する。
- ・競技中はマスクを外し、各自、記名されたチャック付きビニール袋に入れる。他の児童生徒との取り違いを防ぐため、マスクには記名する。
- ・ダンス、団体競技では手をつなぐ、道具を共用する、組み合わせなどの活動はしない。（ポンポンを持つよう工夫、道具は一人一人に作成・使用）
- ・応援席は1テントに9人までで複数準備し、学部ごとに離して設置する。
- ・保護者の参観は一家族一人まで、グラウンド内に距離をとって参観する。

【効果および情報発信】

- ・リズムに合わせて体を動かす、力いっぱい走る、ゴールまで頑張るなど、児童生徒が笑顔で体を動かす楽しさと達成感を味わっていた。
- ・例年と同じように実施し、特に自閉症の児童生徒の安定につながった。
- ・学校HPに団体競技の仕組みや教材を公開した。
- ・県立特別支援学校校長会研修会で、校長が取り組み事例を紹介した。
- ・メールにて問い合わせのあった特別支援学校には、より詳しく説明した。



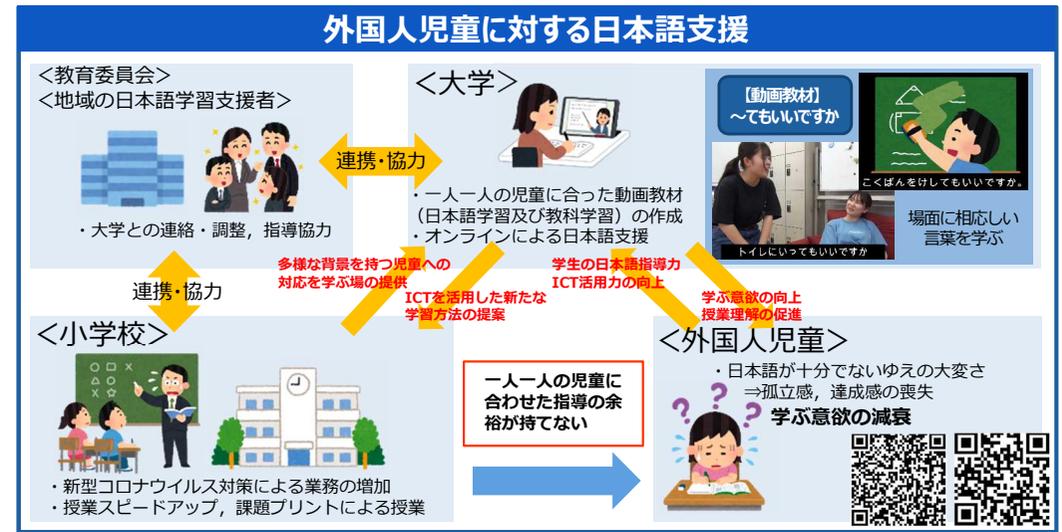
2. 国立教員養成大学・学部関係

【北海道教育大学】外国人児童に対する遠隔での日本語支援（国際地域学科）

日本語能力が十分でない外国人児童は、孤立感や達成感の喪失から学ぶ意欲を失うケースが多いため、外国人児童一人一人に合わせた日本語支援のあり方が課題となっている。特に地方都市では日本語支援ができる人材が不足しているため、その傾向が強い。

このため本学では、学校現場からの要請を受け、教育委員会と連携の上、学生が主体となって外国人児童に対して継続的に日本語支援を行ってきた。今年度はコロナ禍の中で可能な支援の第一歩として、動画教材「『とてもいいですか』の練習」を作成し、2名の児童（フィリピンルーツ、インドネシアルーツ）に支援を行った。学校現場や日本語学習支援者からは、「児童が趣旨を理解し動画を見ながら会話練習をすることができた」「語彙や場面も配慮されている」と高い評価を受けた。

これらの支援は外国人児童の授業理解の促進はもちろんのこと、特別な配慮が必要な児童の指導にも応用できるため、支援から得られた知見を教員養成教育の中で積極的に活用していく予定である。



【北海道教育大学】本学が開発したCBTによる在宅学習支援と教員研修への活用

コロナ禍の中、教育実習前CBTを在宅学習に活用することとし、本学学生はもちろんのこと、全国28大学(国立5・公立3・私立20)から利用申込みがあり、約1700人が在宅学習に活用した。学生アンケートでは、「詳しく対処法の意図が解説されており理解が深まった」「イレギュラーなことが実際に起こっても対処していけると感じた」との声があった。

また、教員として身に付けておくべき実践方法をまとめた「教育実践力向上CBT（発展編）」が、北海道教育委員会及び札幌市教育委員会の初任段階研修において活用された。初任教員アンケートでは、91.2%が現場における実践にあたり具体的なイメージを広げることができたという回答があった。さらに「基本に立ち返り自身を振り返る上で役立った」

「様々なケースを学ぶことで指導の幅が広がり、現場での判断や対応に役立つと感じた」との声があった。

今後は、これらのCBTを活用し、より効果的に学習するためeラーニング機能を追加するなど、さらなる改善・充実を図っていく。

教育実習前CBTの問題と解説例

【学習指導・授業改善】

No.11 個人差への対応

グループワークの中で、発言することが苦手な児童生徒でも発言できるようにするための工夫として、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

- ア 教師や司会者が考えを引き出してから発言させるなどのサポートを行う。
- イ 自分の考えをノートなどに書いてから発言させるようにする。
- ウ できなかったことや自分のやる気のなどについて反省文を書かせる。
- エ 発言できそうなことについては、その子から指名するなどの配慮をする。
- オ どのような意見も認め合うなど、間違えてもよい雰囲気づくりをする。

【正答】ウ

【解説】発言が苦手な児童生徒でも発言ができるようになるためには、原因を解明し有効な手立てを考える必要がある。ただ時間を保障するだけでは、ますます苦手になる場合が多く、プレッシャーがかかるだけで効果的でない場合がある。また、反省文を書かせるなど、プレッシャーをかけるだけでは、効果が見込めないことが多い。

＜その他の問題例＞

【教師論】

授業に臨む心構え／儀式における儀礼作法の指導

【学級経営】

児童生徒同士の信頼関係づくり／教室掲示の工夫

【学習指導・授業改善】

資質・能力の3つの柱／ポートフォリオ評価

【特別支援教育】

特別な配慮を必要とする児童生徒の理解

【生徒指導】

自己指導能力の育成に向けた教師の心掛け

【危機管理】

アナフィラキシーショック／健康観察の内容や方法

【『学習指導要領』・教育課程】

小学校国語目標／知的財産に関する教育

【法規】

長期欠席者等の教育委員会への通知



2. 国立教員養成大学・学部関係

【宮城教育大学】コロナ禍における図書館の分散利用の推進

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と学生への図書館サービス提供の両立を図るため、館内の施設予約システムを応用して来館者やその利用時間を限定した図書館の分散利用を実現した。学生は事前に混雑状況を参照しつつ、希望する時間帯での図書館利用を予約することができ、図書館は来館予定者や人数を予め把握することができる。また、時間帯ごとの人数や利用者の身分によって制限を設け、今後の感染状況に応じてより柔軟な開館を行うことも可能である。
- 既設のシステムを事務的に応用した運用のため、特別な費用は一切発生させることなく、宮城県の緊急事態宣言解除の翌日には、速やかかつ滞りなく学生を受け入れることができた。
- システム開発元の企業からは、想定していない有効活用事例として高く評価され、同社システムユーザー向けのWebサイトおよびメールマガジンにて広く紹介された。



【東京学芸大学】オンライン上で繋がる「学びをとめない」場の創造

—感染症禍での教員養成と教育現場の課題解決を進めるサービスラーニングの取組—

- 子供たちの学習支援サイトの構築を通じた学生・大学教員・学校現場の協働と教員養成
- ・休校中の幼稚園児から高校生までを対象とする「勉強して遊ぶ」ことができる学びのコンテンツを、学生ならびに附属校を含む教員に手持ちの知的資源を活かしたり新たに研究して自作し提供してもらい、学習支援サイトとして構築後、大学HPを通じて広く配信した。
- ・サイト閲覧者数は延べ21,803名で、特に、学校休業期間中によく利用され、教員養成大学として有事の「学び」支援ができた効果は大きなものとなった。
- ・公立学校や各家庭から「利用している」「子供が夢中になっている」等のご意見がよせられるとともに、ご質問、ご要望に応じて内容の更新や追加を行った。
- ・特に、広報や運営に関して企業とも連携して実施した「24時間で高校の物理内容を全て学ぶ」ことにチャレンジした取組みは、「学ぶ」ことの面白さがよく伝えられるとして各種web上で取り上げられるなど、社会的に大きな反響を呼んだ。
- ・本取組は、学生にとって、学ぶことと教育現場での課題解決の両者を結びつける、PBLとしてのサービスラーニングの取り組みでもあり、コロナ禍において、課題解決に向けて学び続けていく意欲や態度を育む一つの重要な場ともなった。



2. 国立教員養成大学・学部関係

【新潟大学】学内システムの負荷軽減・学生からのアクセスを容易にする授業実施

【背景・目的】

学内システムの負荷軽減・学生からのアクセスを容易にするYouTube授業を実施。

【取組内容】

YouTubeに動画をアップ（URLは学習管理システム（LMS）上で通知）。学生は動画（大学メールアドレスのユーザーのみ閲覧可能）を視聴し、動画に埋め込まれたワードや講義内容に答える出席レポートを指定期日までにLMS上に提出。出席レポートに書かれた質問には次回の動画で回答。成績評価のための課題も別途出題し、LMS上で提出。

【結果・効果】

- ・学生のPC環境・通信速度等に左右されない授業環境の構築が可能。
- ・繰り返し視聴して理解を深めることができる（対面授業にはない効果）。
- ・出席率は高く、コメント・質問は質量ともに良好で授業回ごとに理解度を測ることが可能。質問を精選し次回講義の中に位置づけ説明・解説。
- ・学生の質問を講義に取り入れることで学習意欲を向上させる効果が期待できる。

YouTubeでの講義提示画面



【新潟大学】討論でアクティブ・ラーニングを加速するオンライン講義と授業研究の取組

【背景・目的】

情報伝達に限定されがちなオンライン多人数講義において、小グループの話し合いを主に授業構成することにより、遠隔でもアクティブ・ラーニングを通して概念構築を促す実践を行っている。

【取組内容】

- ・受講生136名の理科教育法の講義，Zoomによるオンライ授業を実施。
- ・ブレイクアウト・セッションを利用した28のグループ別話し合い。
- ◎ Zoom講義に他大学教員が参加し，学生の話し合いを直に参観した後，「学生の困難と教授法」をテーマにオンラインによる授業研究を実施。

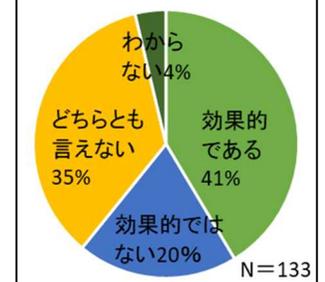
【結果・効果】

- ・オンライン画面上での対面，画面共有による緊張感あるグループ討論。
- ・画面上の操作や投票を伴った討論の視覚化（右図①）による理解の促進。
- ・高い出席率-課題提出率：各回98-100%，「効果的」の回答：41%（図②）。
- ・学習成果：「指導内容が学生自身の言葉でよく語られている」（図③）。
- ・オンライン授業研究で，居ながらにして全国から助言を得て授業改善。



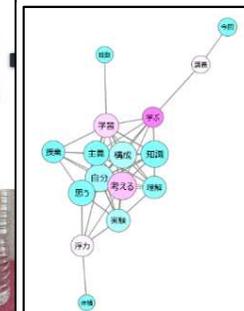
←①(上)画面共有でラベルを移動させて協働マップ作成 (下) 投票機能を用いて理科問題に解答

オンライン講義は効果的か



↑②中間アンケート結果

←③振り返り記述より頻出語の分析：トピックの「構成主義」を中心にキーワードが結束



2. 国立教員養成大学・学部関係

【滋賀大学】遠隔講義における理科実験とチャット形式によるデータダイエット

- 学生の自宅へ理科実験キット（自宅で安全に実験ができるもの）を郵送しておくことで、遠隔講義においても理科の見方・考え方が習得できる理科実験を実施。
- オンラインで再現性の高い実験結果を共有する必要があることを踏まえ、安全に短時間で実施でき、実験技術をあまり必要としない実験を選定。
- また、Microsoft Teamsにおけるチャンネルを活用することで、チャットシステムを用いたテキスト投稿、画像・動画投稿、投票システムを用いた同時双方向授業を、データダイエットしながら実現。
- データダイエットの観点から、ビデオ通話は真に必要な時に限定し、その場合においても教員が話した内容をリアルタイムに文字起こしを行い、通信障害等での聞き漏らしに対する情報保障を実施。
- これら遠隔講義の様子はTVニュース（タイトルは「オンライン授業も参加型に」）にて放映（4/30, 5/25）。
- 全15回の授業を終えた後の授業評価アンケートでは、『「主体的・対話的で深い学び」を実現していたと「とてもそう思う（50%）」、「ややそう思う（50%）」』、『これからもオンラインでの理科実験授業を受けたいと「とてもそう思う（31%）」「ややそう思う（44%）」「あまりそう思わない（25%）」』との回答があり、アクティブラーニングをオンラインでも実現できていたことを確認。



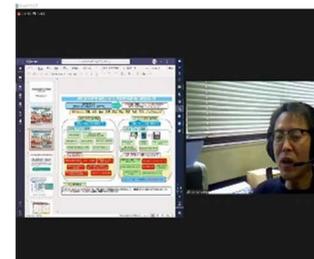
郵送した実験キット



【兵庫教育大学】「学生ニーズに応えるオンライン授業」のための個別最適サポート

教員養成・研修高度化センター「先端教育研究開発コア」が中心となり、効果的なオンライン授業づくりを推進・支援。一全学生・教員にオンライン授業に関するアンケート調査を実施し、両者に個別最適化されたサポート体制の構築をめざす。

- ① 調査結果を教職員研修会やWebページ等で全学的（学生含む）に共有
- ② 教員一人ひとりのオンライン授業の実施状況や学生・教員のICTスキルの把握を行い、先進的な授業の事例収集やサポート窓口を設置
- ③ 毎月開催する教職員研修会や専用Webで「オンライン授業アイデア交流会の実施」「効果的な反転学修や合理的配慮事例」「Society5.0時代における教育ビッグデータと一人一台の端末活用」「オンライン授業のTips & FAQ」や「教室間を結んだオンライン授業の実施方法」などを紹介
- ④ 後期・来年度に向けた「対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリッド化についての考え方」の全学共有など



「オンライン授業に関する研修会」の様子

14. オンライン授業で良かったと思うことについて、選択してください。（複数回答）



オンライン授業に関する学生アンケート集計結果（一例）

- ZOOMやTeamsのチャット機能では、対面よりも意見が言いやすい。
- 移動の時間や無駄な時間がなく、課題などにも自分の最善のペースで消化できる。
- 大学から送られてくる情報が多すぎて、処理しきれない。
- 課題の多さに、締め切りに追われている気がして落ち着かない。

学生の感想（一例）

学生ニーズアンケート+大学教員アンケート

両者に個別最適化されたオンライン授業の構築



2. 国立教員養成大学・学部関係

【山口大学】オンライン学童保育「大学生とおうちで遊ぼう！」

- 本活動は「新しい生活様式」の下でも、教育学部生と子どもたちが密に関わり合う機会を提供し、オンラインの特性を生かして新しい遊びや交流のカタチを創出するきっかけを提供したいと考え、開始した。
- 取組内容は、Zoomを使って、子どもと大学生が自宅にいながら、みんなで一緒に様々なアクティビティ（絵しりとり、すごろく、工作、借り物競争、クッキング、国際交流など）を行うというものである。
- アクティビティを企画・実施しているのは教育学部生（主に1年生）である。教職員は、SNSやウェブサービスを活用した児童の募集、Zoom初心者への技術的サポートといった後方支援を行っている。
- GWから週1、2回のペースで実施しており、本年9月末時点で実施回数は22回、参加者171名である。県内のみならず、東京、大阪、愛知、北海道、オーストラリアなど国内外の児童に利用されている。
- 以上のような実践を重ねる中で、学生は学校現場において遠隔教育を行う上で必要な技術・知識を高めている。



メール配信されたURLをクリック
※Zoom初心者には電話でも対応



これは何でしょう？

年齢ごとに4、5名ごとのグループに分かれ、様々なアクティビティを実施

イベント告知

グループ別打合せ・準備

全体会議・ふり返り

運営・準備・打合せなどはすべてオンラインで実施



【愛媛大学】実技系科目の遠隔授業対応

【背景】

コロナウイルス感染拡大防止のため、音楽・美術・体育等の実技系科目も遠隔授業を導入せざるを得なくなった。

【目的】

新たな生活様式を想定し、実技系科目について、遠隔授業で可能な限り教育効果を上げる方法を開発する。

【取組内容】

音楽における取り組みの事例

- オリジナル動画を作成し、Youtubeに限定公開でアップロード、視聴させる。その後、Moodleを通じ、課題を提出させる。
- 学生に録画・録音を行わせ、容量が多いファイルの場合は、YouTubeにあげてもらい、教員が視聴し、改善方法、練習方法をメールで指示。
- 相互評価や意見交換はZoomやチャットを用いる。

【結果および課題】

- 音楽史や器楽基礎等の理論的な授業では、Moodleや動画の活用を行った。繰り返し視聴ができることで、対面型よりも効果的な内容となった。
- 時間が制約されないため、課題提出率が高くなった。
- 実技系の科目の場合、楽器や材料、作業場所確保の問題に加え、実技を通じた教師と学生、学生と学生のやりとりが不可欠であり、すべてを遠隔で対応するのは無理であったため、警戒レベルが下がったときには、他の教科よりも優先的に対面型を実施させた。

音楽での遠隔授業



2. 国立教員養成大学・学部関係

【大分大学】教師力向上のための教員採用試験対策オンライン型指導システムの構築

・公立学校教員採用試験において過去最高の合格者数（97名）・合格率（82%）を示した昨年度の水準を継続すべく、3月に今年度の採用試験対策講座を開始した。3密を避け最大限安全に配慮しながらのスタートであったが、4月の緊急事態宣言以降は、一切の対面による指導を自粛することになった。急遽非対面による新たな指導体制を構築し、5月の連休明けより6月に対面型指導が解禁されるまでの期間、完全オンライン化による指導に踏み切った。

・学生は自宅で撮影した模擬授業の動画や指導案、板書計画、あるいは論作文、願書を大学のLMSやメールで提出し、教員は電話やメールを介して指導・助言を行った。面接や集団討論はオンライン会議システムを活用し、双方向通信による指導を実現した。

・最高成績だった昨年度の同時期の対面型の指導実人数を目標値（100）とした場合の今年度のオンライン型の指導実人数の到達度を右表に示した。学生、教員共にオンラインのコミュニケーションに不慣れな中、到達度は6割に達している。非対面による指導効果の低下が懸念される一方、授業動画を繰り返し視聴できることによる新たな深い気づき、メール等でテキスト化される指導記録の活用などオンライン型指導の利点があることもわかった。本学部では、アフターコロナの時代にも持続可能で効率的な指導の在り方を今後も検証していく。

オンライン型指導の到達度（令和2年対面指導開始前まで）

主な指導内容	到達度	オンライン型 (令和2年)	対面型 (令和元年)
模擬授業	66.7%	60人	90人
面接	39.3	11	28
集団討論	72.2	13	18
願書添削	52.8	19	36
小論文指導	65.6	21	32
全体	60.8	124	204

※ 到達度は令和元年同時期の対面型指導実数を100とする

3. 教職大学院・大学院関係

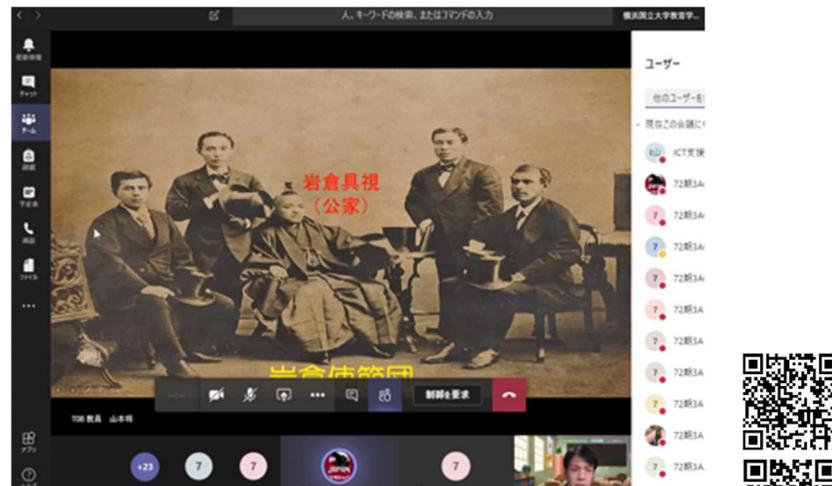
【横浜国立大学】オンライン講義・実習及び院生の主体的な取り組みによる遠隔教育の推進

(オンライン学校実習)

- 一人1台端末を整備している附属横浜中学校において、5月からオンライン授業の参観等によるオンライン学校実習を開始。連携協力校の高等学校においても一部、実施。学校のオンライン授業の取り組みの実際を体験し、具体的な方策や実施にあたっての課題について学んだ。

(院生の主体的な取り組み)

- いつでもアクセス可能なオンライン院生室の設置により、対面していない院生同士のコミュニケーションが活性化。
- 院生有志によるオンライン座談会「神奈川県の子どものオンライン化について考える」を5月23日に開催。院生、教員だけでなく、県内の教員、教職大学院OB等を含む45名が参加して、活発な意見交換を実施。事後アンケート回答者の95%以上が満足、やや満足と回答6月27日に2回目、8月22日に3回目を実施した。先進的な取り組みを行っている学校の視察レポートもwebで公開。



附属横浜中学校のオンライン授業

【熊本大学】“教職大学院発”遠隔授業に関するオンライン研修及び学習支援動画の制作・公開

- 「遠隔授業で何ができるか？」を統一テーマとしてオンライン研修「熊本大学教職大学院情報教育研修会」(Zoomミーティング)を開催。4月「成功と失敗の事例から」、5月「子ども一人一人に対応する」をサブテーマとして、県内の公立学校及び学部附属学校からの実践報告と分科会(ブレイクアウトルーム)を実施。全国からのべ500名以上の教育関係者が参加、新型コロナウイルス感染症対策の中で生まれた新たな知見や現場の課題をリアルタイムで共有(図左)。
- 休校中の児童・生徒の学習意欲向上を目的として、教職大学院生が学習支援動画11本(小・中・高の各教科の学びに関連)を制作、熊本県立教育センター指導主事及び県教育委員会義務教育課等から指導助言を受け、完成。完成した動画は、5月から県立教育センター及び本学教職大学院のWebサイトで公開(図右)。併せてプレス発表を行い、広く県民に周知。動画を視聴した教員に対するアンケート調査(回答者251名)の結果、69%の教員が学力保障につながる動画であると評価した。

